

進捗状況報告シート

(2011年度・大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	社会学研究科
大項目	5 学生の受け入れ (研究科)
中項目	
小項目	5.0.1 学生の受け入れ方針を明示しているか。
要素	求める学生像の明示 当該課程に入学するにあたり、修得しておくべき知識等の内容・水準の明示 障がいのある学生の受け入れ方針
小項目	5.0.2 学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集および入学者選抜を行っているか。
要素	学生募集方法、入学者選抜方法の適切性 入学者選抜において透明性を確保するための措置の適切性
小項目	5.0.3 適切な定員を設定し、学生を受け入れるとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。
要素	収容定員に対する在籍学生数比率の適切性 定員に対する在籍学生数の過剰・未充足に関する対応
小項目	5.0.4 学生募集および入学者選抜は、学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に実施されているかについて、定期的に検証を行っているか。
要素	

II. 自己点検・評価(2010.5.1~2011.4.30の進捗状況報告)

《目標・指標》

本項目において、2009年度~2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の評価を行っている。進捗評価はA~Dの4段階とし自ら評価した。A~D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 各課程別学生受入方針の明示	→アドミッション・ポリシーの確立(2012年度入学試験募集に間に合わせる)	B	B	/	/	/
2. 毎年、収容定員充足率を100%にする	→収容定員充足率	C	C	/	/	/
		☆				
2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→	/	/	/	/	/
	→	/	/	/	/	/

《現状の説明》 ※ 全小項目について記述が必要

小項目5.0.1	5.0.1 学生の受け入れ方針を明示しているか。
	(方針の有無) いずれかにチェックしてください。 →→→→→→→→→→ <input checked="" type="radio"/> 方針を設定している <input type="radio"/> 方針は設定していない
	(明示の有無) いずれかにチェックしてください。 →→→→→→→→→→ <input checked="" type="radio"/> 明示している <input type="radio"/> 明示していない
	(受け入れ方針) 方針としては、以下のようなアドミッションポリシーを設定している。 「社会の幸福に貢献しうる知」の創出を目標としながら、現実社会を観察/記述/分析する「ソシオリテラシー」の習得を通じて、社会的ならびに社会心理学的発想力・実践的な社会調査の技法・国際発信力を身に付けて社会の本質を探究し、そこに潜む問題を解決へと導くことのできる人材を養成します。 そのために社会学研究科では、様々な社会現象や国内外の諸問題に興味を持ち、柔軟でバランスのとれた思考力、自主的な行動力、鋭い観察力や分析力を有して、次のいずれかを志す学生を、出身大学での専攻等による制限を設けることなく、社会人や留学生も含め広く求めています。 ・専門的な理論や社会調査の技法を身につけて、マスコミ・出版業界、シンクタンク、民間企業・官公庁、学校等での業務に従事し、これからの社会を支えリードしていく人材。 ・高度な専門的知識を活かして、企業や官公庁で調査・研究や企画立案に携わる研究者、または高度の専門的職業人。 ・高度な研究能力のみならず、幅広い教育能力と実践活動能力をも兼ね備えた大学教員。
(説明) 2010年5月12日社会学研究科委員会にて承認されたアドミッションポリシーを2011年度大学院入試要項より掲載した。	

☆

小項目5.0.2	5.0.2 学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集および入学者選抜を行っているか。 (説明) 「社会学研究科一般入学試験細則」にもとづき、大学院研究科委員会において入学者選考を行っている。また、出題採点にあたっては、大学院研究科委員会構成員が幅広く担当している。
小項目5.0.3	5.0.3 適切な定員を設定し、学生を受け入れるとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。 (説明) 充足率は、前期課程：2008年度0.96、2009年度0.83、2010年度0.71、2011年度0.58。後期課程：2008年度0.67、2009年度0.75、2010年度1.00、2011年度1.08。前期課程の未充足状態についてコースのあり方を含めて検討をしている。また、広報活動として、年2回の進学説明会実施および関西圏の大学や研究者を対象に広報パンフレット送付を行っている。
小項目5.0.4	5.0.4 学生募集および入学者選抜は、学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に実施されているかについて、定期的に検証を行っているか。 (検証の有無) いずれかにチェックしてください。 →→→→→→→→→→→→→→→→ → <input checked="" type="radio"/> 検証している <input type="radio"/> 検証していない (説明) 年度初めの大学院研究科委員会において、指導教員選択の審議、副指導教員選択ならびに全入学者の構成の報告を行い、検証している。
その他	

《評価指標データ》

(特定指標データ)本項目は数量的なデータによる評価(現状分析)が可能のため、次のとおり指標を定め経年比較している。

【社会学研究科】		前期/後期課程	単位	2007	2008	2009	2010	2011	備考
指標1	入学定員	前期課程	名	18	12	12	12	12	
		後期課程		8	4	4	4	4	
指標2	志願者総数	前期課程	人	28	15	17	19	16	
		後期課程		10	1	7	6	3	
指標3	合格者数	前期課程	人	17	10	13	6	7	
		後期課程		7	1	6	6	3	
指標4	入学者数	前期課程	人	17	9	8	6	6	
		後期課程		7	1	6	5	3	
指標5	志願者倍率	前期課程	倍	1.6	1.3	1.4	1.6	1.3	志願者÷入学定員
		後期課程		1.3	0.3	1.8	1.5	0.8	
指標6	入学定員に対する入学者数比率(5年間平均)	前期課程	倍	1.03	0.88	0.78	0.69	0.67	入学者数÷入学定員
		後期課程		1.93	1.38	1.03	0.93	0.93	
指標7	入学者に占める一般入試入学者の比率	前期課程	%	58.8%	55.6%	75.0%	83.3%	66.7%	一般入試入学者数÷入学者数
		後期課程		85.7%	100.0%	100.0%	60.0%	100.0%	
指標8	収容定員	前期課程	名	36	24	24	24	24	
		後期課程		24	12	12	12	12	
指標9	在籍学生数	前期課程	人	31	23	20	17	14	
		後期課程		27	8	9	12	13	
指標10	収容定員に対する在籍学生数比率	前期課程	%	86.1%	95.8%	83.3%	70.8%	58.3%	
		後期課程		112.5%	66.7%	75.0%	100.0%	108.3%	

注)指標2、5について入学定員の変更あり(2008年度の社会福祉学専攻人間福祉研究科に改組のため)
2007年度まで前期課程18名、後期課程12名、2008年度より前期課程12名、後期課程4名

(その他の指標データ)

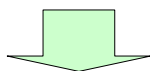
- 入試形態別志願者数、受験者数、合格者数、入学者数と割合【大学基礎データ】
- 地域別志願者数、受験者数、合格者数、入学者数と割合
- 科目等履修者の入学者数
- 聴講生の入学者数

☆ 追加データがあれば追加してください。

◎効果が上がっている事項 ※目標の進捗評価が「A」の場合は必ず記述してください。

《点検・評価(1)》効果が上がっている事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目5.0.1	
小項目5.0.2	
★小項目5.0.3	
小項目5.0.4	
その他	



【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策

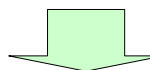
注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目5.0.1	
小項目5.0.2	
★小項目5.0.3	
小項目5.0.4	
その他	

◎改善すべき事項 ※目標の進捗評価が「D」の場合は必ず記述してください。

《点検・評価(2)》改善すべき事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目5.0.1	
小項目5.0.2	
★小項目5.0.3	
小項目5.0.4	
その他	



【次年度に向けた方策(2)】改善方策

注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目5.0.1	
小項目5.0.2	
★小項目5.0.3	
小項目5.0.4	
その他	

◎自由記述

【点検・評価】&【次年度に向けた方策】

★その他 (自由記述)	
----------------	--

Ⅲ. 学内第三者評価

<評価専門委員会の評価>

【学外委員】

○収容定員に対する在籍学生数比率が前期課程で58.3%と大きく低下した点が懸念されます。

【学内委員】

○前期課程の在籍学生数比率が傾向的に下がってきています。適正な検討、対処が期待されます。

○具体的にアドミッションポリシーが設定され、それが公表されている点は大いに評価できます。前期課程の定員については、未充足な状態が続いているので、これを改善するための諸施策の実施が望まれます。

○アドミッション・ポリシーを明示され、それに基づいた学生募集や入学者選抜を行い、検証も行っていきます。

○小項目5.0.2については、現状においての学生募集方法、入学者選抜方法はどのように行っており、それが適正であるかどうか、透明性を確保する措置はどのように行っており、それが適正であるかどうか、などについて聞いていますと考えられます。この視点での記述が必要かと思われます。

○大学院の定員管理は本学だけの問題ではなく、また質の問題も絡み難しいところですが、適正な管理に期待します。

○小項目5.0.3の「また・・・」の内容は、小項目5.0.1や5.0.2での説明、もしくはその他での説明が適切かと思えます。

○前期課程の充足率が芳しくない中、昨年度、改善すべき事項に記述された内容が本年度は示されていません。進捗評価は「C」ですが、記載される方が良いのではないのでしょうか。

○昨年度の次のコメントは本年度もそのままコメントとします。

・定員充足数に関しては、目標とされている100%は達成されておらず、今後定員を充足するために、積極的に諸施策を実行することが求められます。

【大学基準協会：評価に際し留意すべき事項】

○小項目5.0.1

基盤評価：「理念・目的、教育目標を踏まえ、求める学生像や、修得しておくべき知識等の内容・水準等を明らかにした学生の受け入れ方針を、学部・研究科ごとに定めていること」「公的な刊行物、ホームページ等によって、学生の受け入れ方針を、受験生を含む社会一般に公表していること」

○小項目5.0.2

基盤評価：「学生募集、入学者選抜の方法が、受験生に対して公正な機会を保障し、かつ大学教育を受けるための能力・適性等を適切に判定するものであること」

○小項目5.0.3

基盤評価：「【学士】学部における過去5年の入学定員に対する入学者数比率の平均が1.00である（※）」
(略)

「【学士】学部における収容定員に対する在籍学生数比率が1.00である（※）」
(略)

「【学士】学部における編入学定員に対する在籍学生数比率が1.00である（※）」
(略)

「【修士・博士・専門職学位課程】部局化された大学院研究科や独立大学院などにおいて、在籍学生数比率が1.00である」

○小項目5.0.4

基盤評価：なし

達成度評価：「検証を実施する体制を整備し、責任を明確にするなどしたうえで、学生の受け入れの適切性について、恒常的かつ適切に検証を行っている」

○小項目5.0.1～5.0.3

達成度評価：「学生募集、選抜の実施状況等は、公正・適切なものである。（評価に当たっては、当該大学の説明・証明から、下記のことから明らかであるかに留意する。）

- ・学生の受け入れ方針と、学生募集、選抜の方法等の整合性
- ・学生の受け入れを適切に行うための必要な体制の整備

Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

★ 5.0.2 学生募集については、募集要項のホームページ掲載、年2回の進学説明会実施、関西圏の大学や研究者への広報パンフレット送付、ゼミ担当教員を通じての告知など、幅広く行っている。また、入学者選抜においては、「社会学研究科一般入学試験細則」（社会学研究科内申し合わせ）にもとづき実施している。その際、出題採点は大学院研究科委員会構成員が幅広く担当するとともに、合否判定は大学院研究科委員会において公正かつ適正に行っている。

5.0.3 充足率は、前期課程：2008年度0.96、2009年度0.83、2010年度0.71、2011年度0.58。後期課程：2008年度0.67、2009年度0.75、2010年度1.00、2011年度1.08。前期課程の未充足状態についてコースのあり方を含めて検討をしている。

改善すべき事項

5.0.3 前期課程の未充足状態

改善策

5.0.3 現在、6名としている専門社会調査士コースの定員を見直す。（専門社会調査士コースの入学者：2003年度4名、2004年度6名、2005年度1名、2006年度2名、2007年度3名、2008年度1名、2009年度1名、2010年度0名、2011年度1名）